

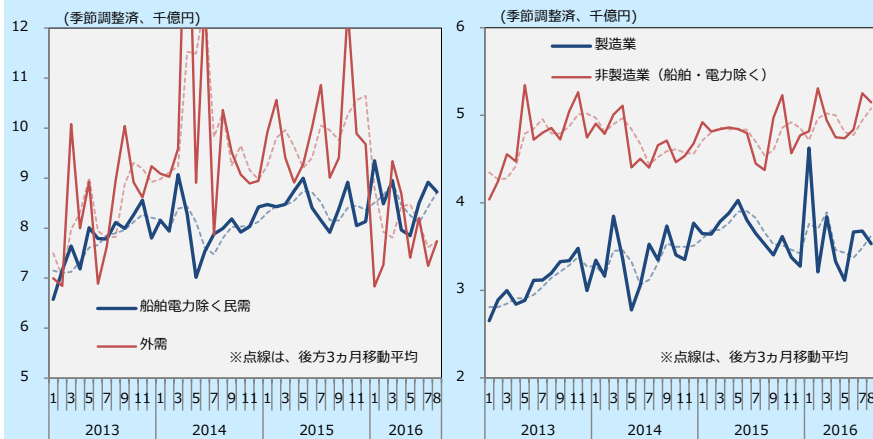
日本：機械受注統計（2016年8月）

—3ヶ月ぶりのマイナスも、緩やかな持ち直し基調を維持—

MRI Daily Economic Points

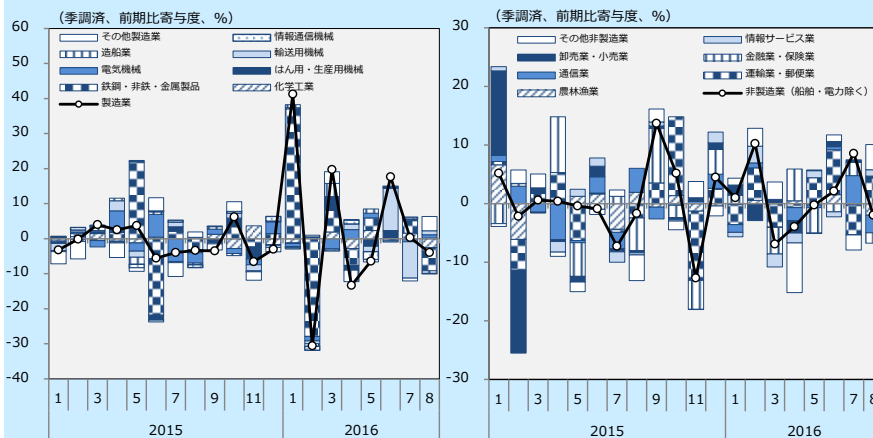
October 12, 2016

機械受注額／製造業、非製造業の機械受注額



資料：内閣府「機械受注統計」

製造業の機械受注額の寄与度分解／非製造業の機械受注額の寄与度分解



資料：内閣府「機械受注統計」をもとに三菱総合研究所作成

評価ポイント

2016年8月の結果

- 16年8月の機械受注額は、設備投資の先行指標といわれる船舶・電力を除く民需が、季調済前月比▲2.2%となり、3ヶ月ぶりに減少した。一方、外需は同+6.8%と、2ヶ月ぶりに増加した。
- 8月の機械受注額を業種別にみると、製造業は季調済前月比▲4.0%と3ヶ月ぶりの減少。非製造業（船舶・電力除く）も同▲1.9%と3ヶ月ぶりに減少している。
- 製造業の内訳は、鉄道車両や重電機の増加などから輸送用機械（前月比寄与度+1.1%）や電気機械（同+0.9%）がプラスとなったものの、前月の大型案件の反動により鉄鋼・非鉄・金属製品（同▲6.6%）が減少、さらに化学工業（同▲2.6%）もマイナスとなったことから、全体として減少した。
- 非製造業（船舶・電力除く）の内訳は、物流関連が堅調な運輸業・郵便業（前月比寄与度+4.4%）は増加したものの、前月の大型受注の反動で通信業（同▲3.0%）が減少、また農林漁業（同▲2.0%）も減少し、全体でもマイナスとなった。

基調判断と今後の流れ

- 機械受注は、8月は3ヶ月ぶりのマイナスとなったが、基調としては、緩やかながらも持ち直しつつある。
- 業種別では、非製造業は、堅調な運輸業・郵便業に牽引され、緩やかな増加基調にある。製造業は、円高や不透明な海外経済が重石となっているものの、加工業種、素材業種ともに下げ止まりの兆しがみられる。加工業種では、はん用・生産用機械などで持ち直しの動きがみられる。また素材業種では、医薬品や化粧品等の需要増加を背景に、化学工業の投資が改善している。
- 先行きの機械受注は、緩やかながらも持ち直すと見込む。非製造業は、物流施設関連を中心に、引き続き緩やかながらも増加基調を維持すると予想する。一方、製造業は、円高による投資スタンスの慎重化や投資計画の後ろ倒しから、当面横ばい圏内での推移となるだろう。